

平成 23 年度第 1 回コラボレーション・プロジェクト
男女共同参画“親育て”セミナー

「優しい人を育てるために」

開催日時 平成 23 年 9 月 17 日（土） 14:00～16:30

場 所 兵庫県立男女共同参画センター（神戸市）

出席者 60 名

内 容

(1) 講 演

「心に寄り添い、心でつながる 優しい人を育てるために」

講 師：仲島 正教（教育サポーター）

(2) 講師と参加者のクロストーク

主 催：兵庫県男女共同参画推進員神戸地域連絡会議ドマソーラ神戸

共 催：県立男女共同参画センター

企画代表者：西尾多珂子（兵庫県男女共同参画推進員神戸地域連絡会議

ドマソーラ神戸青少年健全育成研究活動グループ代表）

○講 演

1 はじめに

私は、兵庫県西宮市で小学校教師を 21 年間勤めたあと、西宮市教育委員会人権教育指導主事、学校人権教育課係長を 5 年し、2005 年 3 月に退職しました。

その後は、教育サポーターとして、若手教師対象の授業づくりや学校づくりのセミナー、保護者、生徒対象の人権教育、子育てをテーマにした教育講演会などを行っています。

私が指導主事の時ですが、毎朝、通勤途中の家の近くで出会うピアスをしている高校生の若者がいました。「おはよう」と私が声をかけでも一瞬、嫌な表情をし無視していましたが、何度も声をかけているうちに、声が小さいものの、若者から返事が返ってくるようになりました。そして、町のちがうところで、その若者がタバコを吸って、

たむろしているところを私が目撃しました。遠くから、私が「おい！」と声をかけると、若者は慌ててタバコを消しました。そして、「もうすぐ中間試験やろ。がんばれな。よう知らんけどな」と声をかけると、「はい、がんばります」と素直に答えてくれるようになりました。優しい言葉をかけると相手からも優しい言葉が返ってくるのです。



2 人権教育について

人権教育は、人間が生まれたときから、始まっているのです。人間はひとりでは、生きられませんよね。温かいつながりを持ち、支え合って生きていくことが必要です。人間は、どうやったら優しくいられるか、親子のつながりに重点をおいて、話をしていきたいと思っています。

5年生になって初めての道徳の授業で、黒板に「優」という字を書きます。この漢字の右半分は「憂」です。「この漢字はうれしいと読むんやけど、心がつらいという意味や。みんな、こんな気分になったことあるか？」とクラス全員に聞くと、全員があるというわけです。子どもも、それぞれ何らかの悩みを抱えて、小さな胸を痛めているのです。

たとえば、「先生、勉強できひんから、俺だけ居残り学習させたやろ、一人でつらかったで」「休み時間、俺だけバレーボールに誘ってくれへんかった」などです。そんなとき、わからへん問題教えたろかとか、いっしょにバレーボールしようやとか、優しく声をかけてくれたら、どんなにうれしいでしょうか、心強いでしょうか。

つらい時に、そっと人が寄り添ってくれる、そんな優しさが、仲間づくり、学級づくりの大事なところですよ。

3 大切な心の中の子ども銀行

子どもの心の中には、優しさの体験が貯金される銀行があります。この優しさの貯金がつらいときに役立ち、困難にあった時、乗り越えていく力となるのです。

それでは、優しさの貯金の作り方について、お話したいと思います。あれは、30年前、先生となって3年目で、小学校一年生の担任となり、言葉の通じない相手に悪戦苦闘している頃でした。あるお母さんから、私は優しさの貯金の作り方を教えてもらいました。

授業中に、児童の一人がうんこを漏らしました。周りの子どもたちがくさい臭いと騒ぎ出したので、「あれは油粘土のにおいやから、気にするな」と諭しました。私は、その児童を傷つかせずに、うんこを処理しようと一生懸命に考えました。「今日は天気がいい。授業はやめて、運動場にて、みんなで遊ぼう。誰が一番早いかな。それ、運動場へ行こう」と声をかけると、一人を残して、一目散に教室を出ていきました。さあ、それからが大変です。

まず、トイレについていき、ソナーと児童のズボン、パンツをおろしたら、私の手のひらに「ポトッ」と大きなうんこが落ちてきました。それで私の覚悟は決まり、タオルできれいなおしりを拭いてから、代わりのパンツをはかせました。

そして、その児童が、家に帰って、お母さんにうんこをもらしたことを言いました。そのお母さんは、「そう、先生にきれいにしてもらったの。優しい親切な先生でよかったね」と言って機嫌よく迎えました。その児童は、ほっとしたと思います。子どもに大切なのは、現在と未来です。私は、それまでは過去を大事にする、厳しいだけの先生であったことに

気づかされました。親や教師は子どもの未来の応援団であるということ、そのお母さんに教えてもらったのです。

そして、こんなこともありました。クラスに、お母さんが夜働きにでている片親の女の子が3人いまして、初めは一人の家に集まって一緒に勉強していたのですが、次第に、エスカレートして、タバコを吸うようになりました。そして、外で3人がたばこを吸っていたところを警察に見つかり、補導されてしまいました。3人のお母さんが警察に迎えにきたとき、お母さんの顔を見た瞬間、「ごめん、ごめん」と泣き崩れた子が一人だけいました。私はその女の子のことが気になり、お母さんに何か、特別なことをやっているかどうか聞きました。すると、「別に何もしていません。ただ、毎日、夜遅く帰ってきて、娘の寝顔に『今日はどうだった。風邪ひいていない、おやすみ』と声をかけています」とそのお母さんは教えてくれました。

また、父子家庭のお父さんが、非行で我が子が補導されたことを悔やみ、仏壇の前で、「お母さん、ごめんな、ごめんな」と泣いていた姿を盗み見た、その息子が、その後、まじめになったということもありました。

子どもは、親の後ろ姿を見ており、やさしさは通じるのです。子どもたちは思春期になると、ふらつくことがあります。そんな時に、優しい言葉をかけると、足元を見つめ直します。お母さん、お父さんの体温のある言葉は、たとえ背中越しでも子どもの心に沁みこんでいくのです。子どもは、誰かに見放されると、暴走します。しかし、誰か寄り添う人がいれば、自制が働きます。優しさの貯金は、しんどい時にそれを乗り越える力となるのです。



4 子どもが生きる「10秒の愛」

「10秒の愛」というのがあります。私が赤ペン持って、作業をしていると、「先生、遊ぼう」と声かけてきて、「今、あかん」と言ってしまったら、それで、子どもの心は離れていきます。その時、赤ペンを10秒間だけおいて、その子どもを抱きしめて、「作業が終わったらすぐに行くから待っててね」というのです。PTAやどんな会合、会議でも、腹が立った時は10秒間の間をおくことで、頭を冷やすことができ対応も変わって

くると思います。中学生だったら、10 秒間待つことですね。小学生は愛してもらうことが、中学生には信じてもらうことが大切なんですね。

5 あなたがいてあなたといてよかった、【優しさ】でのつながり

私は、小学校を卒業するとき、私はよい人間だという順番に並びなさいという卒業試験をします。それで3日間、6年生は頭をかかえて、クラス全員で話し合って答えを出します。答えを出したということで、呼ばれて教室に行くと、机といすを後ろに片付けた教室に男子も女子も交互になって、ひとつの輪になって座っていました。

「誰が一番良い人間なのか」と私が問いかけると、みんなが手をあげ、「誰が一番悪い人間なのか」と問いかけると、みんなが手をあげました。

「そう、みんながみんな、良いところもあり悪いところがある、人間は一人で生きていけない。これからも温かい輪を作って生きていくんだよ」と言って送り出してきました。

私は、「あなたがいてよかった、あなたといてよかった」といえる、優しさであふれた、家庭、学校、地域を作ってほしいと思っています。

6 おわりに

今日、皆さんに家に帰ってやってほしいことを宿題として出します。

小学生以下の子どもには、「あなたがいてよかった」と言って抱きしめてあげてください
中学生以上の子どもには、気持ち悪いと言われても、背中越しにでも「あなたがいてよかった」と言ってあげてください。その言葉は、背中から心へと沁み入ると思います。

子どもは、親の姿を見て育ちます。

最期に、「できるかできないか、するかしないかよりも一歩踏み出すことが大切である」と言いまして、私の講演を終わりたいと思います。ご静聴、ありがとうございました。



○講師と参加者のクロストーク

講演終了後、10分間の休憩時間に、机を取り除き、いすだけで、仲島先生とともに、輪になりました。進行の石橋正俊氏のカードを使ったゲームで和やかに始まり、自由な意見交換を行いました。

参加者からは、「仲島先生の優しさがあふれるお話でした」「子どもをいとおしく思いました」「今日帰ってから、子どもを力いっぱい抱きしめます」「言葉にできないほど、心に響きました」などの感想が寄せられました。また、スキンシップを求めてくる中学生の息子、子どもの心を傷つけてしまったことなどへの対応等相談にも似た質問も多く出ました。仲島先生は、子どもの心に寄り添ったり、子どもの手を握りしめたりするなど親の愛情をたっぷり注ぐしかないなど、丁寧に答えていました。